

No. 13

1988

8月1日発行

萩の郷

発 行 者
下 市 田 区
発行責任者
下 井 武 平
印 刷
キタバヤシ印刷



荒 神 さ ま

荒神さまの森は萩山の里の中央に位置し、鎮守の森として昔から下市田区民に親しまれてきた。

荒神堂は安養寺の守護神として凡そ今から六百五十年前三宝荒神が祀られ庶民の信仰のよりどころとなり、春の村祭りは郷土芸能としての獅子舞・囃屋台で賑わった。

このような荒神さまの信仰が現在のように衰退したのは国の郷社合祀の訓令により大正二年上の宮(現在の萩山神社)に奉遷されてからである。

その後区民の総意で分霊を奉祀することで大正十四年新しい社殿を造営し荒神の旧社へすさのおの命三宝荒神を奉祀し現在に至っている。

区の情勢について

区長 下井武平

(一) 裁判についてはそれ以後四月二十二日、六月十日、七月五日の三回西沢先生一人上京されました。また先生の要請により熊谷章さんを証人として高裁へ申請。認められれば秋頃の開廷に上京をお願いする事になります。

十四年度事業の検討が始まります。必要事業については、それぞれ関係委員に申し出て下さい。

(二) 夏季の山作業が七月十日をもって予定通り終わりました。区民各位のご協力有難うございました。

(三) 道路では、産業会館前と唐沢線が地権者のご理解とご協力によって完成しました。

(四) 間ヶ沢堤の斜樋の改修工事が始まり、八月末完成の予定です。

(五) 振興計画による六



改修工事中の間ヶ沢堤

昭和62年度 下市田区一般会計決算報告書

(昭和62年4月1日～昭和63年3月31日)

収入の部

支出の部

区 分	予 算 額 (千円)	既収入額 (円)	予算残高 (円)	区 分	予 算 額 (千円)	既支出額 (円)	予算残高 (円)
1. 区 費	9,000	10,364,750	-1,364,750	1. 総 務 費	10,839	13,351,819	-2,512,819
2. 繰 入 金	8,700	7,426,342	1,273,658	2. 厚 生 費	587	672,390	- 85,390
3. 町 支 出 金	3,800	3,194,496	605,504	3. 区 有 地 費 (林務費)	1,490	1,154,450	335,550
4. 財 産 収 入	1,000	1,318,840	- 318,840	4. 土 木 費	6,920	1,134,529	5,785,471
5. 寄 付 金	2,600	0	2,600,000	5. 水 利 費	2,405	2,408,435	- 3,435
6. 繰 越 金	500	10,365,036	-9,865,036	6. 消 防 費	978	187,840	790,160
7. 諸 収 入	1,600	2,086,856	- 486,856	7. 公 民 館 費	2,570	2,570,000	0
				8. 予 備 費	1,411	0	1,411,000
合 計	27,200	34,756,320	-7,556,320	合 計	27,200	21,479,463	5,720,537

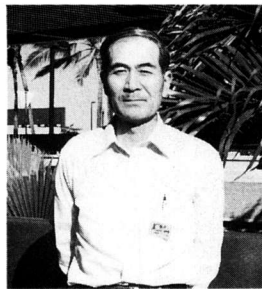
昭和62年度 下市田区特別会計決算報告書

決算差引残高		収 入 (円)	支 出 (円)	残 額 (円)
既収入総額	34,756,320	29,173,960	0	29,173,960
既支出総額	21,479,463	831,887	0	831,887
差 引 残 高	13,276,857	561,831	0	561,831
		3,581,091	926,400	2,654,691
		4,480,109	4,480,109	0
		199,191	0	199,191

・収入の中には前年度繰越金を含む。

私とさつき

福島 宣明 (二区)



私は下市田一番です

私が、さつきを始めたのは、十六年前になります。切っ掛けは、会社の友人に誘われて、中川のさつき園から一本三百円で、「八尺の鏡」という種類を買い求めたのが、そもそも私がさつきに取り付かれた初まりです。今では鉢数も百鉢以上になり、新しい花を見る度に、これ以上増やしてはならないと思いがちで買ってしまうので、家内に愚痴をこぼされております。何しろ夏の間は、一にも二にも水掛けが大事で、この時期に水切れになると来年の花芽が出来ないので大変です。

趣味もいろいろあります

が、さつきの楽しみは、木が古くなる程一本の木から

赤・白・ピンク・シボリと色とりどりの花が多く出る様

になり、其の神秘さには我ながら

驚かされます。花を見に来られた方達からも不思議がられて、「どの様にして接ぎ木をするのですか」



随想

思いつくままに

中下 秀子 (一区)

何についてでもよいからと、先日、萩の郷の担当の方から原稿を依頼されました。このところ文章らしきものはほとんど書いた事がなく引き受けてしまったもの

と質問される程です。花はすべてそうですが、殊にさつきは雨に当たるとすぐ汚くなるので、咲き出すとベランダや納屋へ棚を作って取込みます。花が咲き揃った一時はとても壮観で、夜な

ど電気をつけると、いっそう華やかになり、冬越しから今迄の手入れの苦労も忘れ、家族皆で一ヶ月は楽しむ事が出来ます。

花が終ると、剪定、植替えが始まりますが、近所の方や、見ず知らずの方達が立ち寄り、サシ木を持って行かれ、同じ趣味を持つ者同志、年齢を越えて話がはずみ、心の交流が出来るのも楽しみの一つです。

今回下市田さつき一番という事で、原稿の依頼を受けました。しかし私は、かならずしもそうとは思いませんが、思いつくままに記してみました。

とにしました。

私は二年程前から知人の紹介によりある場所へ勤めに出ております。家が農家なので日中いつでも父母が田畑で農業ができるよう、その日に必要と思われる肥料や農業機械を運んでおいてから出掛けます。勤め先は飯田市大久保町の合同庁舎の中にありますが、私にとっては仕事量もさほどきつくなく、窓口の仕事も兼ねているので色々な方々と知り合いになれ、楽しみです。何かと我がままばかり

下市田公民館組織について

ご意見をお出しく下さい

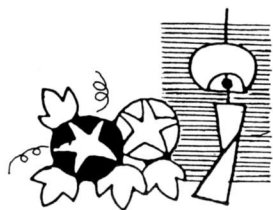
下市田区では将来の公民館組織のあり方につき三区正副代表議員会長・正副部長・下市田出身の社会教育委員・コミュニティ地区指導員・公民館関係者による委員会を発足し検討に入りました。

七月二十一日の初会合以降検討を重ね、年内にも方向づけをしたいとしています。

「積極的なご意見をお待ちしております」

の私でも皆さん親切にして下さり、帰宅時間が近づく頃になると夕食の支度などの事を考えて、つい家に帰りたくないなあーなんて考えてしまうのです。

主婦について、何処で、何をしても心の隅では家族の事、家庭の事を案じているのではないかしら？できることならたまには誰



の少ない私が言うのも変ですが、自分が楽しいと思う事を一つでも多く見つけ、家族がお互いの存在を認め合い、共存できたらいのになあ。まだまだ炎暑きびしき折から皆様どうぞ御身体には充分留意されてお暮らし下さいように。

下市田公民館 教養講演会

下市田公民館では去る六月十二日(日)夜公民館において「武田信玄と我が郷土」と題した教養講演会を開催した。

講師は郷土史家で前飯田女子短大教授の大沢和夫先生で現在NHKの放映の関係もあり熱心な聴講者がみられた。

講演は先生が事前に用意

された資料にもつき武田氏の系図から信玄、勝頼の時代まで当地方の関係を含めて話され、脚色されたNHKの放映と対比し史実にもとづく大へん有意義な講演となった。

・当日の講演資料有用の方は公民館事務局へご連絡ください。



(ドッチボールは初めて 多少とまどい気味)

ドッチボールが登場

下市田

スポーツ大会

下市田公民館では去る六月十九日(日)、南小学校体育館において各区対抗ドッチボール・ミニバレー大会を開催した。

特に本年度からスポーツ行事への区民の大ぜいの参

加を計るため従来の四〇歳以上ソフトボール、ママサンバレーボール大会に変えて実施したもので、誰でも参加できるスポーツとあって各区の選手も従来とは一変した顔ぶれとなり大会が

大いにもりあがった。

ドッチボールは男子三五歳以上(五〇歳以上二名を含む)と女子は年齢制限無い混成チームとし、ミニバレーは女子四〇歳以上と常時五〇歳以上の男子一名以上を含むものとし、各区総当りとし、試合時間は一〇分で二セットマッチで勝敗を競った。

各区とも多数の選手層の参加と初の試みで体力造りと公民館行事にはふさわし

六三年 萩の里まつり

コンクールで盛況

七月三十日午後七時から下市田保育園運動場において吉川町長をはじめ大勢の来賓と区民一〇〇〇余名の参加をえて盛大に開催された。

特に今年は各区競演による「高森音頭コンクール」をとり入れ各種盆おどり、子供花火大会、大人・子供のお楽しみコーナーも加って会場が大きくもりあがった。

い催しとなった。

当日の成績は次のとおり。

*ドッチボール	
優勝	一三 区
準優勝	一五 区
三位	一四 区
*ミニバレー	
優勝	一四 区
準優勝	一六 区
三位	一三 区
*総合	
優勝	一三 区
準優勝	一四 区
三位	一一 区

演技で六区、多勢の参加で一区となり、コミュニティと夏の夜の行事にふさわしい催しとなった。



下市田工業団地シリーズ

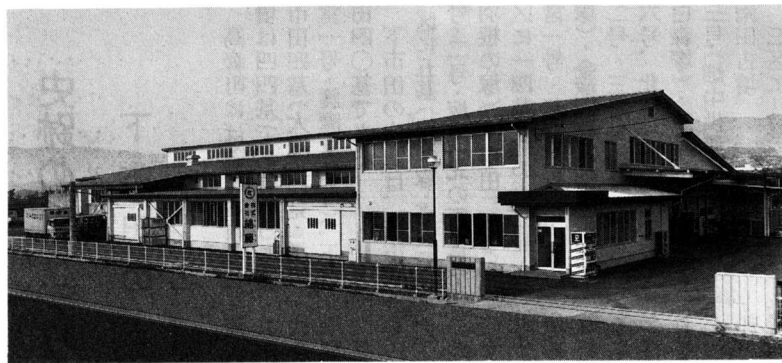
②

地場産業の伝統を生かし 新しい食生活を創造する

株式会社 綿藤

食品加工事業部

日本の食生活に、素朴な味でうおいを添えて来た漬物。これには、どなたでも家庭の味、おふくろの味



と、信州味噌を生かして、みそ漬として古くから食されて来ました。この信州みそ漬をなんとかして全国の方々に食してもらえないものかと、戦前よりいろいろとところみられ、各社の努力により本格的に市場に出て全国からその味が注目されたのが、昭和三十年代からであります。

当社も信州独特の素材を生かし、年々ともになる消費者ニーズに応えるべく研究、努力し地場産業として日本の食生活の向上につとめてまいりました。

ここに至り、今の多様化する食生活の中で消費者の皆様に満足し

ていただける製品を食卓にお届けするには旧工場では狭隘となり、移転を計画しておりました。幸いに町当局や、地域の皆様の御理解と御協力により、緑に囲まれた下市田工業団地に進出する事が出来ました。社員一同、この良き環境のもとで食品の製造にたずさわる事が出来ることに誇りを持ち、感謝をしている次第です。

これを契機に今の食生活に求められているグルメ、ヘルシー嗜好に信州の特色を生かし、地場の味を基にし、これら多様化する消費ニーズに応え、品質の向上と新しい商品の開発につとめ、これからの「楽しむ食生活」を漬物で創り出し、社会に貢献したいと役職員一同努力しております。

更に当社の卸部門である商事事業部も下市田工業団地に進出出来る運びとなり、地域の皆様の御要望にマッチした商品を取りよせ、楽しい食生活が創り出せる様これ又努力し、地域の発展に寄与したいと考えております。

今後一層、地域の皆様方のお力添えを心からお願い申し上げます。

地域の一員として 株式会社外松 飯田営業所

「緑と福祉と文化の町」ここ高森町に、今年の正月からお世話になりました株式会社外松の飯田営業所でございます。

当社は、昭和七年に飯田市本町で、砂糖卸売業として産ぶ声をあげ、昭和二十七年に株式会社組織変更し、創業以来五十七年目を迎えております。

資本金も必要の都度、増資をいたしまして、二九九〇万円になりました。

当社が取り扱っている商品は、菓子・食品・製菓原料・アイスクリーム・牛乳等で、ご家庭に縁の深いものばかりで、年間六六億の売上げをあげております。

店舗は飯田卸団地内にあります。本社のほか、松本・伊那・高森に営業所を、東京・姫路に駐在所を置き、一二〇名の従業員が一丸となって、前進をつづけております。

ところで、ここ飯田営業所の役割ですが、当地のかねまた製菓さん、津具屋製菓さん、天恵製菓さん、又この団地に進出される、



吉川屋製菓さん等で、製造されたこの地方特産の半生菓子を流通にのせ、全国のお茶の間へお届けしております。

従業員は北海道から中国地方まで車で活躍している営業マン、包装・出荷・事務と総勢三〇名が、貧欲なまでに美味しさを追求し、ひいては地域の活性化をお願いしながら働いております。

つい最近「ふるさとの新鮮さを保冷パックで直送」をタイトルに、遠山郷でとれる味つけマトン、手造りコンニャク、ヤマメの一夜干しを進物用にセットし、郵パックで、デビューいたしました。ご利用いただければ幸いです。

夏は菓子の需要も少なめとなりますので、今からスタミナを蓄え、秋ぐちからの需要期に備えております。やがて時季になりますと、町の

有線からキレイな声で、求人広告が流れると思います。が、そのときは是非ご支援をお願いしたいと思います。

三〇名の集団の中に、高森の人が四名ほどおりまして、よく自慢話をしてくれませんが、自然の環境もよく、今はよいところへ来たという喜びを満喫しているところです。

おつきあいは、これから始まるわけですが、どうか温かいご理解と、ご指導を賜わりますよう、お願い申し上げます。

下市田の古墳

高森町には確認される古墳は四四基である。うち上市田四基（大塚・高見・護摩堂一号・護摩堂二号）、下市田四〇基である。

高森町の古墳は、いずれ

流入も盛んに行なわれ、それが地方に及んだ。この時代を古墳時代という。前期・中期・後期に大別す。

を記す。

一、金部一号墳
(畑中の塚)

四枚現存するが、他に入口にあった二枚は取りはずされて土蔵の礎石に使用されている。副葬品は多数出た

下市田の内訳は、下市田も田墳にて古墳時代の後期
一区に五基(猿楽塚・唐沢原
号・二号・塚越(北の原一号)の
(今から一四〇〇年位前)の
地方の豪族の墓にて、そ

るもので、基底の径二〇 m 高さ四 m を計る。頂上の平地には、金山大神他の小祠

二、武陵地一号墳
(秋葉塔の塚)

羽根の塚。下市田二区と六区に一四基(北の原二号若宮一号・若宮二号(田家の塚)・金部一号(畑中の塚)のすべてが見事な墳形で現存するだけでなく、墳丘を認められる二〇基、墳丘はないが石室用の石が残存す

を祀り、傍に数本の桜樹がある。この塚の最も注目すべき点は、有段式であることである。鏡餅を重ねたよ

五区武陵地にある横穴式古墳にて、平地に築かれた円墳である。頂上は径六・二mの半場となっていて、

二号・三号・四号・五号・六号、北林一号（出砂原天白森塚）・二号（塚踏切）・三号（畑中供養塚）・四号・南田古墳。

るもの八基である。

江戸時代迄は塚神様の崇りをおそれて保存されていた古墳も、明治・大正・昭和となると日本は外国と何

うに、基段の上に主塚を築いたもので、郡下でも数少ない。南々西に開口する石室の入口あたりには、土止めの石垣があって、二段式

一隅に一位の太木がある。
そのもとに秋葉大権現・金
毘羅大権現・夜燈籠他小社
が祀られる大石塔群がある
現存する封土は、直径一

三区に八基で（御射山、^{かま}鎌薙・法界・大門・荒神の森・大庭・塚田一号・二号）四区に三基で（上洞一号・二号・三号）五区に一〇墳のように天竜川の浸食に

の形状がよくわかる。石室の入り口は、地平面より二五^mの高いところにあるが堆土のためようやく這って入れるほどに狭められてい

六・九 m 、高さ四 m であるが、東西と南面がけずり取られて石垣を作って、原形を狭められている。

基で（丸山・平塚・武陵地
一号（秋葉塔の塚）・二号・
三号・四号・五号・六号・
中谷・坂牧の森塚）が明ら
かにされている。

より三分の一も崩落した塚
や、三区の角田原の鎌薙塚
のように間ヶ沢川の洪水に
て崩落して跡方のない塚も
ある。

る。
横穴式石室の前端部が破壊されて崩落しており、玄室（葬った死者をおさめていたところ）と羨道（玄室に

横穴式で大正中期に発掘された。長さ九・〇九 m 、底面の幅一・五 m から奥へ行き二・一五 m で、その高さ二・五 m から二・九 m であ

古墳は勢力のあった天皇や豪族の墓にて、三世紀のころから大和地方を中心に造りはじめられ七世紀頃迄

その中で二区にある金部一号墳(畑中の塚)、五区の一號墳(秋葉塔の塚)などは高森町の古墳を代表

通ずる道)の区別がはっきりつかない。石室の主軸線は北二〇度東を示し、出入口を南々西に開いている。

る。その天上石には長さ二・五m、幅一・五mもある巨石五枚使用されている。

石室の主軸方向は北二〇

ている。所有者小川氏の談によれば、石室の内壁には全面に朱が塗ってあったとのことである。現在では朱色ははっきりしないが、よ

飯伊地方の古墳で、内壁に朱を塗ってあるものは座光寺の高岡一号墳ほか数基に過ぎない。この古墳から出土せる遺物も多く、そ

く見るといくらかその跡^{あと}が認められる。朱を塗って玄室を飾ったものと思える。館に保管・展示されている

1. テレビ・コマーシャル
「憧れの仕事」と考えるのか
テレビの無い生活は一寸
あなたはどちら？

考えられぬ昨今です。民間テレビの運命は、コマーシ

2. 腰痛（椎間板ヘルニア）

ャル収入次第である。毎日、人間が直立して歩く様
 テレビをひねるとこれが流
 になった時から始まった病
 傷害保険の対象になかなか

でも無い(あつ、その人活字人間でゝす。ナウイ人これを見なきや。||少女A)これを作っている人は、見る人に強い好印象を与え、認められぬ怪我(?)。

熱は出ず、外部からなかなか判断出来ないの、しばしば仮病と誤解される。しかし言葉では表せない程

話題を作り、商品イメージを高め、購買意欲を作るか苦心をしています。優秀な頭脳と、巨額の資金が投入され、試作の中からは絶対安静に、痛みが落ち着いたら対策を考えると良い治療には物理的治療、鍼灸、湯治等。予防は、腰痛

んの一部が陽の目をみる。スタッフは、心理学を駆使し、市場調査、高度な電子技術、統計学を使って奮闘する。有名人が使われるか

体操等、その人に合った努力が肝心。

「なに／＼貴方も腰痛ですか」とところで、同音異語で「椎間板ヘルニヤ」と「つ

と思えば、コマージュルに出る有名人の仲間入りをする人もある。
 さて、この仕事を「資本減るにや」(ツイ、カンバン、ヘルニヤ)の二種類あるそうだが、

貴方はどっち？

~~~~~  
 随想  
 ~~~~~

垣間みたアラスカの自然

平澤 忍 夫 (三区)

眼下にアラスカの雪の山々が、朝日に輝いている。午前三時、アンカレッジ空港は、六月だと言うのに風は寒く、外人観光客の中には、毛皮を着た人もいる。三十人程の観光客を乗せたバスは、ハイウェイをひた走る。前方の雪山の間からマタニスの氷河が見える。初めて見る氷河だ。

「シープ」と突然運転手が叫んだ。左手の赤ちゃけた岩山を、点々と白い動物が移動してゆく。「ドルルシープ」(シロイワヤギ)だ。めったに見ることができないと言う。遠くて点々としか見え

ない。ひとつの峠を下ると、前方に湿原が展げ、池塘が点在し、そのひとつにムース(ヘラジカ)が一頭、水を飲んで

いる。バスはトンプソン峠に停車、小さな氷河が間近かに迫ってよく見える。

左右には雪山、岩と氷の峠を下るとバルテーズの港、今夜の宿泊地だ。

いよいよ今日は、最大の目的地コロンビア氷河だ。

が寝ている。

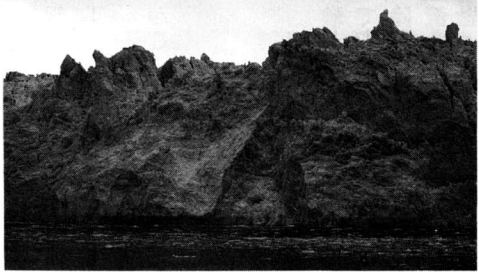
ちりちりと押し出される氷河は、時折無気味な音を立てる。轟音をあげて崩れ落ちた氷塊は、豪快な飛沫をあげる。

氷河ブルーの神秘的な色水が青く輝いて見えるのだ。その深い色に吸いこまれそう

だ。マッキンリー国立公園での灰色熊との出逢い、草原を移動してゆくカリブーの群、大小の野生動物からの生

き生きた姿、機上からのマッキンリー山、眼下に見た原生林を縫ってゆうゆう流れる大河。

垣間見たアラスカの大自然の一部。自然への回帰を更に深くして、七日間の旅を終り機上の人となった。



海に押出すコロンビア氷河

『カタカナ見聞録』

萩乃 露 草 (六区十常会)

この地球上に住んでいる民族には、それぞれにその民族特有の言葉があり、日本には昔から日本語という美しい言葉と、漢字というすばらしい文字があった。

「あつた」という過去形は不適切とのそしりを免れないでしょうが、それは最近ではきれいな日本語がだんだんと影をひそめてきているのも事実なのです。なぜこうなってきたのかと考えてみると、これはやはり近頃のマスコミを始めとする世の中のおびただしいカタカナ文字や言葉の氾濫が主な原因のようで、これも『片仮名』と書いたんではあまり通用しなくなってきたのです。

毎朝の新聞を始め、テレビ、週刊誌、広報、ちらしのたぐいから、日常の会話の中にもカタカナ語がたくさん飛び出します。新聞のカタカナのうち半分くらいはどうやら判断できるものの、政治、経済、産業などの特殊なものばかりにくく、ましてやローマ字で登場するとうお手

上げです。一部の新聞ではかこみの欄を設けて解説してくれませんが、これも流行歌と同じで、やっと覚えた時分にはもう新しいのが流行というありさまです。

新聞や雑誌を見ると、ひらがなや漢字の二、三字でこと足りるものをわざとカタカナやローマ字に衣がえしてお目見得させ、ひどいのはカタカナの下にカッコ(括弧)をつけ漢字サービ

スするものまで現れて、もう、こうなると「何が何でもカタカナに」という魂胆? としか思えません。言葉にしても、日本には昔から話す相手により言葉を使い分けるならわしが、これも最近では敬語や謙語、美しい感嘆詞などは敬遠され、男言葉、女言葉の区別さえあやふやとなって近頃、巷に流行るもの、和洋折衷にパロディー語、新

り次から次と粗製濫造されて大販売? されるので日本列島が『カタカナ症候群』の中毒になり、今ではいいたいどれが正調? 日本語でどれが舶来型で、どれが88型なのか、それをたしかめる神経すら麻痺したのではないのでしょうか。ところがよくしたもので、今、外国では日本語ブームで、各地の日本語学校は花盛りとか。その理由はともあれ、日本語の美しさとすばらしさが国際的に公認されたことは事実で、それと日本人でさえむずかしいといわれる日本語にあえて挑戦する外国の方々の姿勢には脱帽します。

日本人がカタカナを使い外国人が日本語を話す。へんな話ですが、それだけ地球が小さくなったと思えば納得もできます。

つい、調子にのって書いているうちに原稿用紙のます目もあと残り少なくなりまし。最後に、先祖伝来の誇りある日本文化とともに、きれいな日本語と美しい漢字文化をいつまでも大切に保存してゆきたいものです。

小中学生の作文

少年野球大会

小六 小林 滋 (五区)



五月 一打同点のチャンスである。五日の2ストライクまで追い込まれた後、次の球を打ってショートオーバーのヒットとなりランナーが帰って同点、次の打者は残念ながら内野ゴロで、試合終了。勝敗をジャンケンで決める事となり、九人が一列に並び同じ守備位置の相手とジャンケンをしました。一番が負け、二番から連続四人が勝ち、次の六番が勝った時僕達のチームは飛び上がった喜びました。この試合はバント戦法で流れがかわりツキにより勝つ事ができました。

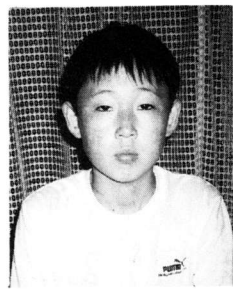
参加二十四チームを四ブロックに分けブロックごとの決勝戦で、高森は、Bブロックでした。

第一戦の相手は上郷で、上郷の先攻で試合開始となりました。初回に1点取られ、二回裏の攻撃では、それまでのヒット戦法からバント戦法にかえ相手のエラーをついて3点とり、3対1と高森がリード、その後毎回点をとられ3対4と逆転されて、最終回の攻撃をむかえた。2アウトランナー3のいで僕の打席となり

成績は、二勝一敗で準優勝。閉会式では、僕が代表して賞状を受けとりました。試合慣れしていない僕達がかこまでこれたのは、先

ガラガラ

小六 木村 智志 (四区)



田の草取りを、初めて経験した。父は腰を曲げて手で取っていたが、ぼくは、除草機を使った。以前、物置きの中で見て何だろうと思っていた道具だった。父は、この除草機のことを、「ガラガラ」と呼んでいた。最初に、父がやり方を見せてくれた。何も力を入れずに、「すいすい」進んでいるように見え、ぼくにも楽に、出来そうな気がした。しかし、ぼくがやってみると、進むには進むのだが、船先の形をした鉄板がどろの下にめりこんでしまい、うまく進まなく、力もいっただ。これには参った。この様子を見ていた父から、「先さんを少しうかすくらいに」

うまく進む時や、つかえる時があることが分かった。深い時には、除草機がどろの中にもぐってしまい、「ゴッポゴッポ」と、重たい音がして悲しくなった。「ガラガラ」や「ゴッポゴッポ」や、いろいろな音をくり返し、二十通りやって終わりにした。あせがにじみ出た。

去年のマラソン大会は雨が降っていました。『きつと延期だな』と思っていたが、結局雨が降っていました。雨が降っていたため、着ていた物も靴も、『ビショビショ』になってしまい道路も雨でぬれていて最悪なコンディションでした。



(右333番が幸子さん)

マラソン大会

中三片桐 幸子 (二区)

がしました。でも、そんな事も忘れて、夢中になって走っていました。その結果、二年連続一位がとれました。私が、なぜマラソンが、好きだと言うと、走り終わったあとの、あのうれしさと言うか、自分で走りきったと言う感激が好きなんです。それと、自分をあんなにも夢中にさせてくれるからです。

マラソン大会も、今年で最後なので、自分で悔いの残らないように、おもいきり走りたと思います。そして、今年も一位をとって三年連続一位の目標を達成させたいです。

編集後記

遅れていた梅雨がようやく明け今回は荒神さまをとりあげた区報第十三号を発行することができました。投稿いただきました方々、大へんありがとうございました。

編集部一同親しまれる区報づくりに努力しています。今後ともご協力をお願いします。